

第3回新県民体育館整備等基本計画検討会 議事要旨

日時：令和7年10月22日(水)13:30～16:00

場所：高知会館3階「飛鳥」

出席：委員11名中8名が出席 ※原田アドバイザー出席

出席委員：刈谷委員、坂本委員、高岡委員、久川委員、古谷委員、前田委員、丸委員、森委員 ※寛藤委員、玉乃井委員、渡邊委員が欠席

オブザーバー：高知市教育委員会事務局 竹内教育次長

議事：

(1) 施設全体構成案

- ア 第2回検討会における意見への回答
- イ 高知市教育委員会の要望と県の対応（考え方）
- ウ スケジュールの変更
- エ サブアリーナの規模の違いによる比較
 - ・機能相関図
 - ・年間利用シミュレーション
 - ・利用者数と観光消費額の比較

その他報告事項：

(1) 事業手法の検討計画及び意向調査計画

- ア 民間活力導入可能性調査
- イ サウンディング調査計画

1 開会

<委員長挨拶>

・今回第3回を開催するにあたり、折り返し向かっており、もう一度この検討会の意義を整理させていただきたい。県民体育館が50年経ち老朽化からこの検討会が始まっているなか、単純にリノベーションをして保っていくという議論であれば、この場は必要ない。これまでのあり方検討会や、前回の基本的な考え方の部分でご議論いただいたように、この先10年や20年をふまえて、まちづくりも視野に入れた議論だからこそ、このメンバーが集まっていると理解している。

・私自身、委員会の中でも最年少であり、若い子どもがいる。20年後30年後、もっといえは50年後まで、このままコストをかけた施設があつて良いのかどうかという議論を踏まえて、教育や経済などを含めたその目指す姿に向かって、論理的に議論を積み重ねた上で、実現し県に対しても要望していかなければいけない。

2 議事

【(1) 施設全体構成案ア～ウ】

<森委員>

- ・メインアリーナは、BリーグやVリーグのレギュレーションを満たしているのか。
- ・全国大会やインターハイを開催するときに現実的なイメージに近いのか。

⇒県) B-Next が 3000 席以上。Bプレミアムになると 5000 席以上であり満たしている。S Vについては、Vリーグが 750 席以上、S Vリーグは 3000 席以上。S VもBリーグも 5000 ということであれば、条件を満たす。

⇒刈谷委員) 高校生のインターハイとなればここだけでは開催できず、春野や市の体育館を使用することになる。ベスト4ぐらいからメインアリーナを使用することは可能。そのときには、BやS Vのようにセンターコートで行うことになり十分対応可能。

<森委員>

- ・e スポーツは計画には入っているか。

⇒県) e スポーツは設置方法によって変わる。条件にもよるがこの規模であれば、e スポーツは開催可能と考える。

<坂本委員>

- ・スケジュールについて伺う。12月の下旬に案を最終決定する前に、オープンハウスなどのニーズ調査をするとスパンが短いのではと感じている。募集期間は長めに設定するとより多くの意見が集めることができるのでは。

⇒県) オープンハウスもパブコメと一緒にできれば、広く広報も可能と考えている。

⇒坂本委員) 11月から12月上旬ぐらいか。

⇒県) 配置案を聞くわけではなく、新県民体育館にどういうことを期待しますかなどを聞いていく。

⇒坂本委員) 長いスパンで実施するということか。

⇒県) 市に協力いただき、大きい施設で、人の出入りがあるような場所を予定。

⇒坂本委員) ワークショップ等、どのように広報すれば多くの人の関心が得られるのか重要になると思うので、多様な方法で少し長めに実施すると、より多くの意見が得られると思う。

<高岡委員>

- ・10/16 市議会説明会で出た意見を紹介してほしい

⇒県) アスパルこうちのグラウンドが教育的、社会教育的にかなり重要な施設だということで、当事者の市教委、高知市としっかり検討をしてほしいとの意見。また、案3の

ように全面利用で進めてほしいという意見もあった。これから先 50 年、60 年この施設が使われていくので、それらを踏まえてしっかり検討していく。

<古谷委員>

・大規模イベントを開催するとき、臨時駐車場として南高校を利用するとの説明があった。その南高校から会場までの移動方法はどうか。

⇒県) 歩いて来ると 15 分から 20 分ぐらいはかかると思う。大規模イベントの際は、興行主がシャトルバスを手配するなどを想定している。公共交通機関に関しては、県も介入し一緒になって対応していきたい。

<渡邊委員の意見紹介> ※前田委員長から

・障害のある方々も競技大会やスポーツ利用が行えるよう、全ての施設（メインアリーナ・サブアリーナ・武道館・プール）において、ユニバーサルデザインに基づいた整備をお願いしたい。

・前回の検討会で示された、県立プール整備に関する県の基本的な考えは、老朽化が進む高知県障害者スポーツセンターのプール機能も集約化する「多機能・多目的なプール」、「子どもから高齢者、障害のある方まで皆が利用することができるインクルーシブなプール」というものだった。

・市街地から近いアクセスや、屋内プールで年中泳ぐことができる利便性を考えると、障害のある方々にとっても利用しやすいプールになると考えられる。ただ、スロープからの入水や多目的更衣室（シャワー含む）などバリアフリーな設計が必要であるとともに、様々な障害特性に対応が出来る職員の常駐が必要である。

・また、県民体育館周辺のエリアが浸水区域であることから、地震等の災害の際は、プールのすぐ近くに避難ができる建物があることが望ましい。

・仮に、アスパルこうちのグラウンドの全面を使えるのであれば、同じ敷地内にプールを残すことの再検討をお願いしたい。また、メインアリーナやサブアリーナの隣に整備されれば、災害時にプールを利用する障害のある方々も避難しやすくなると思う。

⇒県) 障害者の方も使いやすい施設というのは整備の基本的な考えにも入っているもの。各施設が対応できるように設計などに反映していく。例えば、アスパルこうちのグラウンドを全面使うのであればプールを設置できないかという意見については、可能かどうか検討をしていく。言われる通り、メインアリーナやサブアリーナが近ければ、避難するときも、障害のある方が利用されたとしてもすぐ避難が可能と考えられる。

<原田AD>

・プールの件で、今回コストがいくらかかるかという議論がされてないので、そういう視点も必要かと思う。例えば一般的に、ざっくりベースであるが、プールはアリーナの

倍コストがかかる。なので、全体のバランスを見たときに、そういう視点も大事。日本全体で見ても、当初は障害児も一緒に入るようにしっかりリニューアルした方がいいとの意見もあったが、最近では分けたほうが良いという意見に変わってきている。その1つの理由が、アプローチ。必ず車椅子でアプローチするため、追加のスペースが必要。それはむしろ別の施設でしっかり設置した方が基本的には非常に良い。プールを建設するとどれだけの利用や収益があるなどのデータが重要であり、そういう議論も必要。

・防災の観点から、例えば建物を底上げし、1階部分を全部駐車場にし、運動機能を上に上げるとか。最近、京都の龍谷大学を視察したが屋上にフットサルコートを設置しており、土のグラウンドの場合夏場は猛暑で使えないが、そこには屋根が付いており、通年利用が可能。非常に土地の有効活用が良いと思った。

⇒県) 事務局としては、県立プールについては多機能なプールが成立する方向で検討していきたいとお答えしている。用地については他の候補地についても検討している。コスト面も総合的に判断していきながら示すことができたらと思う。

<丸委員>

・資料2-2に関して市教委の教育的配慮においては県が積極的に実施していただきたい。加えて、今回の取組は、経済か教育かという二者択一では決してないということ。先日勉強会に参加したときに、この施設に関しての議論の中で、地元の若者が「これは僕たちが将来にわたって使う施設だから、ぜひ、使い方を僕たちに決めさせて欲しい」という発言をした。まさしくその通りで、今回このアリーナができること自体が、新たな教育の機会創出になると考えており、今ここではすべて大人の議論であるが、50年使う施設になるわけなので、これから使う子どもたちを巻き込んだアリーナであって欲しい。そういうコミュニティーを創って巻き込んでいく。その機会こそが教育だという観点を加えて提案いただけるといい。

⇒県) まさに一番大事なところだと思う。これから子どもたちが使っていく施設なので、ワークショップの話をさせていただいたが、前田委員長とも協力しながら大学生などの若者と意見交換しながら、県民が親しみやすい施設を考えていきたい。

<前田委員長>

・私もコストの面はしっかり検討していくべきだと思う。グラウンドの話に関しては、例えばグラウンドという形ではなく、屋内施設として整備をし、子どもたちが夏場の平日でも使ってもらうことも機会を増やすということに繋がるし、そのコストがどれぐらいかかるかとか、それを全部財政で賄うという考え方ではなく、興行でしっかりと経済効果を生むような活動もサポートし、全体的な整備が検討されているという流れの方が、全体を巻き込んでいくという形では望ましいのではないか。その議論には、データが必要であり、どのくらいコストがかかって、どのくらいで回収できるのか。次の段階

かもしれないが、この議論の中で示していただかないとなかなか進まない。

<森委員>

・案3では、サブアリーナを横に配置することができれば、グラウンド半面利用でいいのでは。加えて地下に駐車場を確保できればグラウンドも半分確保でき、サブアリーナが2面とれ、屋上人工芝にすることで夏場の暑さ対策や雨天時の利用などでプラスの活用ができるのでは。

・防災に関しては浸水区域なので、かさ上げし防災避難の建物として利用されることとなれば市や県全体の拠点として防災関連の予算も使えるのではないか。

・地下に駐車場をとればイベント時にそこを活用し、興行イベントの行列を収容でき有効利用可能。

⇒県) サブアリーナを横に配置することについては可能かどうか検討する。また駐車台数は可能な限り、地下も含めてどれだけコストがかかるのか全体も併せて検討する。

⇒森委員) 今の段階ではいろんな選択肢を入れておく。コストは度外視した話なので、それも含めて考えていただければ。

<高岡委員>

・第2回目の検討会のときにも要望させていただいたが、今の県民体育館のプールは非常に利用者も多く、高齢の方や生涯スポーツの推進においては、プールは市としては大事な位置付けをしている。検討する際には意見として要望させていただきたい。

<坂本委員>

・資料4-3の左下赤字の部分。これは新しい県民体育館の開催が期待されるものということで、現状に対して、機会損失がどれだけ緩和されるのか。

⇒県) 7月から8月にかけて各競技団体やM I C E等の関係者にニーズ調査を実施した。今まで実施できなかったことが5,000席の規模ができることによって可能性があるとの報告もあり県としても受け込めるのではと考えている。シミュレーションでは現状はほとんど空きがなくサブアリーナが2面できれば、余裕が出て、大会の取り合いは大分解消されると思う。

<森委員>

・高知県に5,000人規模のアリーナの需要が、そもそもあるかどうか感覚を知りたい。

⇒原田AD) 全国的に見ても2,000人規模は足りてないそうなので、そのレベルのコンサートというのは、問題なく行える。音楽プロモーターの業界と一緒にやっていくことが重要。Bリーグで使用するアリーナも7割ぐらいは音楽イベントであり、そこから資金を回収している。そういうことも考えると、アリーナは体育館というよりもエンター

テイメントを中心に構成すると非常に理想的。コートの中真ん中にセンターハングビジョンをしっかりと作って、BリーグやSVリーグで使いながら、夢のある施設を作っていけたら。また、ホスピタリティの観点で将来的にBリーグは、ラグジュアリーな空間を作って、そこでビールを飲みながら、飲食しながら観戦するというのを、B1リーグは全部作る必要がある。B2とB3は、あればいいよねという段階。

⇒森委員) 資料ではコンサート3,600席ぐらいの規模ということで、中途半端だとかはないか。

⇒原田AD) 足りないのは困るが、中小規模のコンサートは自由自在に可能。

⇒県) コンサートに関して、2,000から3,000ぐらいの規模が、よく開催されている。5,000規模のアリーナが全国にでき始めているので、アリーナツアーなんかが始まる。その規模で動く方が、同じ規模のアリーナで回ってくる可能性がある。四国の中で規模によってさび分けていくことが大事。また、2,000から3,000人規模は他の規模に比べて回数的にも多くを占めているというデータが出ている。そのため5,000席の規模を作り、コンサート時は3,600席を目指しても間違いじゃないと考えている。

<古谷委員>

・高知は文化やスポーツ面で遅れてる部分があるが、新しい施設ができることによって、教育の観点や芸術の面でも子どもたちのレベルが上がってくる。ただ一度作り上げると50年ぐらいは使っていかなければならない。簡単に建替えができるわけではないことも承知しながら、今の若い人たちが新しいものができてよかったということと同時に、その子どもたちが将来何十年か先に、あのときあの施設ができてよかったねと言えるような施設を作っていきたいと思う。いろんな意見はあってこれを全部集約するととんでもないコストになり、県民市民にもはね返ってくるようなことがあってはいけない。

<高岡委員>

・興行イベント時の飲食等の話が出たが、隣接地には教育施設があるので配慮を当然お願いしたい。

・資料4-2の機能相関図についても周りの施設の配慮を検討いただきたい。

⇒県) 教育施設の配慮は当然検討する。県としても、アスパルこうちに通っている子どもたちが新しくできた施設を使っていだいて、教育的活動にぜひ使っていだきたい。

<刈谷委員>

・今の県民体育館の稼働状況として、一般の方々はメインアリーナとサブアリーナでかなり活用している。ジュニアの小学生を対象に教室をやっているの、そういった部分を配慮するのであれば、サブアリーナは2面でメインアリーナが使えなくても、サブアリーナと別の会場で大会ができる。限られた面積の中でどういう形で活用ができるかを

考えていただき、市民の方々が常時普段使いができることを頭に入れて、図面を描いていただけたらいいかなと思う。

⇒県) 普段使いについてもしっかり検討していく。

<丸委員>

・資料でも数字が少しずつ出てきたことは非常にありがたい。特にイニシャルコストとランニングコストはその根拠と妥当性も含めて、しっかり検討していくことによって前に進む。経済効果の数字や利用日数というのはもちろん大事であるが、経済的な効果をいかに生んでいくかという部分で、県には今後なるべく早急にコストの面をいろんなパターンを想定して出していただけたら。

⇒県) 次回、示していく。

<前田委員長>

・ちばさんセンターからも文書をいただいております、大ホールとの役割分担をこれから検討していただきたいと承っている。新県民体育館をどういうふうにするのか、コスト面、ターゲットの想定などの議論がベースにないと検討していきづらい。数字がないまま議論を進めることができず、数字を示したうえで棲み分けを議論していく必要があるのではないかと。

・立体の図を使っていくつかのパターンを出すことをお願いしたい。

・運用、運営の方法をどうしていくのかを踏まえて、最終的にBリーグのようなスポーツチームが誕生したときに、そういったクラブが主体になって管理をしていくということを考えた場合に経済的な方法を生んでいけるのかということも踏まえて、10年後20年後を見据えた時には必要な部分。次回、スケジュールでいくと、全体的な構成案を実際どういうふうにしていくかという非常に重要なポイントになるので、データに基づいた議論ができれば。

3 その他の報告事項

【(1) 事業手法の検討計画及び意向調査計画】

<原田AD>

・今アリーナはコンセッション方式がブーム。今、高知県には施設がないので、このPFI方式が妥当とは思いますが、例えば仮の話、資材高騰の折、事業費200億かかるとする。その代わりに、高知県が100億出すとすると残りの100億をPFIで民間事業者にお願いするというような、少し変わったPFI方式のやり方は、多分前例にない。議論に値するだろうか。

⇒JV) BT+コンセッションのやり方が近いかなと思っており、いろんな収益事業を行い、収入がかなり上がる。それで十分維持管理費は賄えるので、ざっくりした部分を、

建設費に充てることができる。それは、運営権対価として県に渡すというスキームになってくるので、基本的にはそういったバリューアップがかなり期待できるようなこと、収入をかなり上げていくような収益事業が期待できるのであれば、事業手法として可能。プロスポーツのコンテンツがあり、ホームアリーナとして設定されるかどうかのポイントになる。

⇒原田AD) PFI事業は稼いだ収入の一部を周辺環境整備に回すことができる。プロジェクトをデザインするうえで、まちづくりを強調することが可能であり多くの県民の賛同が得やすくなる。そういう考えでいいか。

⇒JV) 業務の中にエリアマネジメントを含めていくかどうか。それそのものは収益を上げにくいという特徴があり、そこに対する財政投資がないとなかなか持続可能性はないと思う

<坂本委員>

・PFI導入可能性調査について、20社程度想定していたと思うが、どの程度見込みがありそうか。

⇒JV) 営業に来ている企業もあり関心は高いと思う。基本的には代表企業になるのは、事業費的にも建設費が一番大きいので、ゼネコンが代表企業になるような形になるかと思うが、そういった代表企業の実績があるゼネコン、それから運営企業においても実績のある企業を優先的に声がけしていき、民間側でチームアップをしていくので、まずはしっかり関心を持ってもらうことを心がけていきたいなと考えている。

<高岡委員>

・開館後も協議しながら運営ができるような仕組みをお願いします。

⇒前田委員長) 隣接する関係者との協議を行いながら運営を行っていくような過去の事例はあるか。

⇒JV) 秩父宮ラグビー場の事例では、ラグビー協会と協定を結ぶように事業の要件として設定し、その中でまちづくりができるのであればその協定の中で実施していくという事例はある。

<久川委員>

・運営について、どの手法においても公費がかかる。利用収入が仮に足りなかったときに、民間業者がその費用を負担することは現実的にありえないわけで、利用料金制であるのか徴収代行制であるのか、そこも踏まえた上でも方針を出してほしい。

<丸委員>

・方針をどういうふうにしていくかは非常に重要な議論だと思うので、特にPFI調査

の結果を踏まえて、精査していかなければならない。

<原田AD>

・今後いろんな問題や議論が出てくるが、一番大事なことは、何のために整備をするのかをしっかりと見据えながら取り組むこと。新しい体育館ができ、若い人たちがシビックプライドを持ち、50年に1回のチャンスとして、高知にBリーグを作るとか夢を語ることは非常に重要と思う。

<前田委員長>

・第4回の検討会については、まずはアスパルこちらのグラウンドの活用について、しっかりと意見を吸い上げたうえで、隣接する教育機能を生かせるように、スポーツ、文化、観光、経済、防災というところまで、議論していただき、コストの面やパースのような立体図面を含めて、第4回で検討できるように準備をお願いします。

4 開会